

新年度第1回幹事会を開催

- ・郡山りょうの取組み方針等を決定
- ・介護・医療を含めた税と社会保障問題に対応する「政策制度課題整理委員会」を設置

JAMシニアクラブは12月7日、東京友愛会館において新年度第1回の幹事会を開催。2024年度活動方針の具体化、2025年参議院議員選挙の取組み方針などについて

論議しました。



木村副会長の開会挨拶で始まり、大山会長からは次の4点を中心に座長挨拶がありました。①国際的な問題は国連を中心に解決していくというのがJAMの政治方針。国連で決めた核兵器禁止条約や気候変動枠組み条約に基づき、平和問題や環境問題に取組んでいく。②団体署名活動後の健康保険証廃止撤回の取組みについて、退職者連合で何らかの行動が検討される。今後の活動について協力をお願いする。③郡山りょうを国会に送り出す方針を審議し、全員で意志統一しながら取組んでいきたい。④自己負担割合の拡大が目論まれて

いる介護・医療を含め、税と社会保障の問題について突っ込んだ議論をしていきたい。そのための委員会の設置を提案する。

次にJAMを代表して中井書記長からは、①24春闘はナショナルセクター、各産別とも昨年を大きく上回る要求方針となっている。上げ潮春闘の中、JAMとしても昨年を上回る結果を出していきたい。②価格転嫁の取組みについて政府や経団連でも動きが出てきた。25年前から提起しているJAMとしてより活動を強化していく。③郡山りょうの取組みについては、組織を引き締めてしつかり進めていく。強力な応援団であるシニアの皆様への取組みに期待する。との挨拶を頂きました。

石川の松田和広さんと、新潟の西片徳栄さんが就任し、それぞれ挨拶を頂きました。次に退任役員の表彰があり、3期6年幹事を務めた新潟の磯田義則さんに表彰状と記念品が大山会長から磯田さんの代理の西片幹事に渡されました。その後「介護保険制度の現状と今後の動向」についての学習会を開催し、終了後幹事会を再開。2024年度活動方針の具体化、2025年参議院議員選挙の取組み方針について論議しました。

福島 第14回総会を開催

大竹初夫 事務局長

JAM福島シニアクラブは、11月26日、27日に磐梯熱海「ホテル華の湯」で第14回総会を開催しました。来賓としてJAM本部シニアクラブからは田中副会長にご出席頂き、総会に花を添えて頂きました。

総会では、2023年度の活動報告、2024年度の活動に関する件を満場一致で採択しました。特に会員拡大に関しては、現役役員との連携が重要であることを確認し、シニアクラブ

（裏面へ続く）

主張



年金生

先行き不安は否めず、シニアとして安心な生活ができる制度を要求し実現させていかなければなりません。そのためには、我々の代弁者として、2025年参

JAM結成と共に組合役員を引退したのち早期退職し、2008年8月のシニアクラブの結成時から役員となりました。今春行われた統一地方選挙で、昔のような活動は出来ませんでした。OBとして反省や対応を出身単組のメンバーと協議しながら活動を展開して、それな

岡山シニアクラブ
会長 中野 房美雄

現役との連携で 組織強化拡大を

議院議員選挙において「郡山りょう」氏の当選に向けて、現役の皆様との協力体制を強固にして、必ず国会へ送るべく活動していきたいと考えています。

岡山県連シニアクラブでは会員減少が深刻です。加入活動は現役組合役員または書記局からの声掛けのみとなっています。また小規模単組が多く、シニアクラブの活動を理解していただけないことも理由のひとつです。小規模単組が多い地方では地方JAMで統一するか、できない場合でも他地域と合同で



「表面から続く」の役員が事務局と一緒に単組オルグを実施する。

政策実現活動では、2025年参議院議員比例代表選挙にJAMの組織内候補として立候補する「郡山りょう」の必勝に向けての取り組みを実施することを確認しました。

さらに代表幹事・高橋直、事務局長・大竹初夫をはじめとする2024年度・2025年度の新役員体制を確認しました。

また総会に先立ち、第2回パークゴルフ大会を泉崎パークゴルフ場で開催し野外親睦を図りました。

愛媛 第23回総会を開催

藤井正剛 事務局長

11月23日、JAM愛媛高齢者・退職者の会第23回定期総会を新居浜市の「レイイグラッ

ツェふじ」で開催しました。

開会挨拶を前田副代表幹事、総会議長に川之江造機OB会の星川氏を選出して進行。冒頭、森永代表幹事が挨拶の中で「仲間を増やす組織拡大を積極的になければ、じつと



議事に入り、2023年の活動経過と決算報告、監査報告、2024年度活動方針と予算案、役員の選出も承認さ

れました。特に方針の最重要課題である「シニア会員の拡大策」は事前に愛媛地協三役

とシニアの連携強化会議で高齢者の共通認識と取組みに一定の理解を得ています。具体

策として①60歳以降非組合員の単組が多く、組合員化が喫

緊の課題となっているためシニアと連動して、60歳以降は

会員兼シニア準会員Ⅱ労組とシニア組織への二重加入、会費は減額対応。②組合員規模

100名以上の単組で退職者組織の立ち上げ。③60歳以上の組合員の方に直接個人会員（または準会員）として愛媛シニアクラブへの加入、等の推進が確認できました。

愛知 第23回総会を開催

澤山棋正 事務局長

「全世代の希望につながる活動の推進を」というスローガ

を掲げ、10月28日JAM愛知シニアクラブは、第23回定期総会を開催しました。主催者として

吉田会長から会員向けに健康寿命を伸ばすためのストレッチを紹介されました。来賓としてシニア本部大山会長をはじめ、岐阜、三重のシニア代表、連合愛知シニアクラブの代表から連帯

と激励の挨拶を受けました。議事に入り、組織強化・拡大

を掲げた活動報告と活動計画、決算報告、予算案、役員改選案、郡山令氏の推薦、いずれの議案

も承認されました。記念講演として会員でもある渡辺省三さんから実体験を踏まえた「組合員経験者としてのセカンドライフ・居場所づくり」と題する講演を受けました。セカンドキャ



登録と就労体験、それが健康で居心地のいい「居場所づくり」に繋がる話は、なるほどと思わせる説得力あふれるものでした。

総会後の懇親会では感想論議の花が咲き、対面での活動の大切さを改めて強く感じました。

北関東 北関東連絡協議会を初開催

埼玉シニア

小泉茂 事務局長

JAM北関東4県のシニアクラブは11月6日、さいたま市大宮区のJAM埼玉友愛会館で代表者会議を開催。茨城

から高石会長、井上副会長、栃木から高橋会長、廣瀬事務局長、群馬から中川会長、鈴木事務局長、埼玉から那珂会長、小泉事務局長が出席しま

した。課題によつては、各県シニアクラブから個別にJAM北関東の各県連に要請しても個別県連では対応できないことがあり、4県シニアクラブの協議の場が必要、との認識から初めて開催することとなりました。

会議冒頭、那珂会長を座長に選出し、各県シニアクラブの活動報告、現況の問題点などの意見交換がされました。

その後、北関東シニアからJAM北関東へ組織拡大に関して要請する内容の協議を行い、その結果、地協役員OB会の設立に関しては次回の会



合で目的、日常の活動内容を明確に把握してから要請する。

単組シニア組織の結成と財政支援については各県シニアがそれぞれ現役県連や各単組に要請することとしました。協

議の中では、闘争資金を原資に単組シニア組織への財政補助に活用している例が報告さ

れ、各県連や単組に対する要請の際、財政についても触れることにしました。

最後に今後も毎年11月に定期的に開催を確認し、会議は終了しました。

九州山口 第21回総会を開催

宮本日出男 通信員

JAM九州・山口シニアクラブは11月12日・13日、筑後川温泉「桑之屋」で総勢26名が参加し、パークゴルフ交流を含めた総会を開催。

総会では、この1年間の活動経過を振り返ると共に、組織拡大をはじめとした活動方針や予算など全ての議案を満



場一致で確認。組織拡大は、2024年度には「PACRAFT労組」が新たに加盟となりました。ただ、シニアクラブの現状は、結成当時の会員は80歳を超え、高齢化が進行し、総会では、高齢化や世代交代が大きな課題となっており、会員拡大や役員の後継者が見つからない厳しい現状の意見が交わされました。役員の構成や総会の在り方など、もっと地域に密着した取組みにより組織活性化していく方向を確認しました。

また、今回の役員改選では、結成当時から事務局長を担って頂いてきた森峰さんが勇退されました。

新体制では、荒川新事務局長が選出され、みなさんの理解と協力のもとシニア組織のさらなる飛躍に取組んでいきたいと挨拶され総会は終了しました。